

第17回 白馬村地域公共交通会議議事録（要旨）

1. 開催日 平成26年6月3日（火） 10時25分～11時10分
2. 場所 白馬村保健福祉ふれあいセンター2階 学習室
3. 出席者 太田委員、土屋委員（代理）、竹内委員（代理）、勝野（英）委員、上條委員、薄井委員、風間委員、勝野（金）委員、速水委員、渡邊委員、松井委員（代理）、海端委員、篠崎委員、吉田委員
4. 事務局 平林総務課長、太田総務課企画係長
5. 関係職員 太田観光課観光係長、下川健康福祉課主幹、太田観光局派遣主事
6. 配布資料
 - 資料1 : 委員名簿
 - 資料2 : デマンド型乗合タクシー運行状況報告書（平成25年度）
 - 資料3 : ナイトシャトルバス元気号の運行実績について（平成25年度）
 - 資料4 : 平成26年度デマンド型乗合タクシー運行計画書
 - その他 : 平成25年度ナイトシャトルバス「元気号」に関する資料

7. 議事経過

(1) 開 会

風間副会長

第17回白馬村地域公共交通会議開会のことばを述べた。

(2) あいさつ

太田会長

5月の末から汗ばむような陽気が続いており、早くもグリーンシーズンの到来を予想させる。この暑さが逆に呼び水となって多くの来客が白馬にあることを期待している。

本会議については、過去6年に渡り委員各位から慎重な審議をいただき、改めて感謝を申し上げる。

デマンドタクシーについては事業開始当初に比べ、登録者は順調に増加しており、住民の足として村民の間に浸透してきたことを感じる。

ナイトシャトルバスについては、一昨年の課題から運行体制の見直しを行ったが、一部ニーズにマッチしなかった部分もあり、若干利用者が減少した。

両事業とも開始から5年以上が経過し、検討していかなければならない課題も垣間見えてきている。本日は、昨年度の運行実績の報告が主な内容となるが、委員各位からご意見を頂戴しながら、事業運営に反映していきたい旨あいさつした。

(3) 報告事項

事務局・太田

資料1により委員を紹介し、4月から新たに任期が開始されたことから委嘱状を交付した。

(4) 協議事項

規約に従い太田会長が議長となり議事を進行した。

太田会長

協議（報告）事項（1）平成25年度デマンドタクシー事業の運行実績について、担当委員の説明を求めた。

吉田委員

平成25年度デマンドタクシーの運行実績について、別添資料2に基づいて説明した。

運行形態は前年度から変更せずに事業を行った。年間乗客数は8,051人で、前年比で34人の減少となったものの、比較的安定した利用状況となっている。登録者数に対する利用者の割合は41.1%で、特に60～70歳台の利用率が30%台にとどまっており、今後アンケート等で利用者のニーズ調査を行い、利用率の向上に努めたい等の説明があった。

〔詳細は配布資料参照〕

太田会長

平成25年度デマンドタクシー事業の説明に対し、質問、意見を求めたが、委員からの発言はなかった。

太田会長

続いて、平成25年度観光シャトルバス事業の運行実績について、担当委員の説明を求めた。

篠崎委員

平成25年度観光シャトルバス事業の運行実績について、別添資料3に基づいて説明した。平成25年度は、運賃を100円値上げして300円とし、前年度の課題であった「乗り残し」を解消するため、中部エリアを「内回り・外回り」の2ルートに設定したのが運行上の大きな変更点である。

平成25年度の利用実績については9,511人で前年比6.4%の減少となった。その原因として観光局内部の専門委員会でも検討した結果、内回り・外回りルートについて、乗り残し対策にはなったものの、運行時刻の設定に問題があったこと、そして運賃の値上げをしたことの2点が指摘された。

特に17時台に出発する便については利用者数は実績を落としており、やはり利用者のニーズは17時より遅い時間帯にあることが判明したので、これがこの冬シーズンの運行ダイヤ設定のポイントとなる。

また、運賃収入については、運賃値上げもあり301万円となったが、それに対し運行経費は859万円で、差額の約558万円については一部を観光局が、残りを白馬村

が負担して事業を実施したとの説明がなされた。

〔詳細は配布資料参照〕

太田会長

平成25年度観光シャトルバス事業の説明に対し、質問、意見を求めたが、委員からの発言はなかった。

太田会長

続いて、協議（報告）事項（2）平成26年度運行計画案について、担当委員の説明を求めた。

吉田委員

平成26年度のデマンドタクシー事業の運行計画について、別添資料4に基づいて説明した。平成26年度については、運行ダイヤ等の変更の計画はないが、現在の運行計画を開始して3年が経過し、また本年は高齢者福祉計画の策定年度となることから、利用者へのアンケート調査等を実施し、今後の運行計画の参考とするとともに、利用者のニーズによっては運行計画の見直しも検討するとの説明があった。

篠崎委員

基本的な見直しの方向性については先ほど説明したとおりである。今冬シーズンについては12月20日過ぎから2月末までの概ね70日間の運行を予定している。

使用するバスの台数としては3台を予定している。バス3台を使っていかに利用者にとって利便性の高い運行を実現するかを主眼に、利用者12,000人を目標に計画を立てたい。そのため、ルートや停留所について再構築を行い、秋の公共交通会議にお諮りしたいとの説明があった。

太田会長

平成26年度の運行計画の説明に対し、質問、意見を求めた。

渡邊委員

平成25年度のデマンドタクシー事業について、利用者が減少したものの運行便数が増加しているが、事業収支はどうなっているか。

吉田委員

平成25年度の事業費は、約1,240万円弱、そのうち使用料収入は約230万円弱となっている。年によって若干の増減はあるが、ここ数年、執行予算の額はほぼ横ばいの状況であるとの説明がされた。

風間副会長

デマンドタクシー事業については過去には予算についても説明があったと思うが、今回は説明はないのか。

吉田委員

以前、デマンドタクシー事業は補助事業ということで、この会議で予算の執行を認めていただくため個々の事業費についても資料を出していたが、村の単独事業に切り替わったため予算に関する資料は出していないとの説明がされた。

風間副会長

この会議に予算に関する資料を出すことは難しいのか。

吉田委員

委員からの要望ということであれば、今後予算資料を提供したいとの説明がされた。

風間副会長

観光シャトルバス事業について、昨年も500万円の赤字ということであった。これは数年前から提言しているのだが、例えばバスの運行によって実質的な利益を被る方から広告収入をいただくなど、何らかの収入を得る努力をしないといつまでも赤字が続いてしまう。その辺の対策はどうなっているか。

篠崎委員

昨年は、あえてそういった受益者からの負担は求めずに事業を実施してきた。直接的な受益者という考え方が非常に難しい。一昨年、バス停留所を中心として事業所を一軒ずつ回って協力をお願いしたが、事業者の皆様の中にも事業に対する受け取り方に賛否両論があり、ご理解いただいた方については回数券を購入いただくことで協力をいただいたが、なかなか理解を得ることができないことも多々あった。昨年はその反省から、地域公共交通による観光振興という観点により、村による費用負担という考え方で事業を組み立てた。今年についても同じ考えに基づき、予算を組み立て、事業を実施したいと考えているとの説明がされた。

太田会長

受益者の理解が得られないというのは、どういった理由が考えられるのか。

篠崎委員

受益者が具体的には誰なのか特定できないところに理解が得られないとの説明がされた。

太田会長

その他協議事項について、委員、事務局に発言を求めたが、特段協議を求める発言はなかったことから、審議を打ち切った。

(5) その他

事務局・太田

次回会議について、ナイトシャトルバスの運行計画を主題として、秋口に次回会議を開催したい旨の説明をした。

(6) 閉 会

風間副会長

閉会のことばを述べ、会議を閉じた。